

協働作業で気づき、発見する

① 発音とつづり Phonics

① 母音字と子音字
アルファベットの中で、a, e, i, o, u は「母音字」、それ以外の文字は「子音字」と呼ばれます。

A a B b C c D d E e F f G g
H h I i J j
O o P p Q q
V v W w X x

③ 子音字の読み方

1. (1) 下の単語を、声に出して読んでみよう。
(2) 次に最初の文字のみに注目しながら、残りの音に注目して読んでみよう。
気づいたことをペアで話し合ってみよう。

Paul ball

② 母音字の2つの読み方

2. (1) 下の [] 内の単語を、**■** の a, e, i, o, u の発音に注意しながら、表のそれぞれの () に書き入れよう。
(2) 教科書の中から、書き入れた単語の母音字と同じ発音のものを探して、右側の () に書き入れよう。
(3) 書き入れた単語を、文字と発音に注意しながら読んでみよう。

[hand face / Japanese tennis / five six / fox home / music hungry]

	アルファベットの名前と同じ発音	アルファベットの名前ではない発音
A a	() ()	() ()
E e	() ()	() ()
I i	() ()	() ()
O o	() ()	() ()
U u	() ()	() ()



田邊 祐司
(専修大学)

1. NEW CROWN は「アクティブ・ラーニング」にも対応

「新学習指導要領」で注目を集めているのが「アクティブ・ラーニング」(能動的学修)という手法です。でも心配ご無用。アクティブ・ラーニングは教師による一方的な講義形式の教育ではなく、学修者の主体的・能動的な学修への参加を取り入れた教え方・学び方の総称だからです。これはもともと2012年度中教審答申で、一方通行的な講義が多い大学教育に風穴を開けるものとして提案されたものですが、NEW CROWN で授業を進めておられる先生方には恐れるに足りません。

2. 音声指導・学習におけるアクティブ・ラーニング

NEW CROWN の Sounds では、アクティブ・ラーニングの手法を平成18年度版から少しずつ盛り込み、学習者主体の協働作業や気づき・発見というコンセプトに基づいた音声指導・学習法を導入しています。もちろん新しい NEW CROWN にも継承されています。

1年生の「発音とつづり Phonics」では、所与の単語を「アルファベットの名前と同じ発音」/「アルファベットの名前ではない発音」にグループ分けするというタスクが設けてあります。これをペアで協働作業を通して、こなすことで、母音字の読み方が2通りあることに気づくように配慮しています。

Lesson 4 の Sounds では、母音字の読み方の背後にあるルールを協働的・体験的手法で学べるようにしています。ここでは、「単語の真ん中に a, e, i, o, u が来るときにはつづり字(フォニックス)読みになる」というルールへの気づきを起こすことを主眼にしています。

英語らしい音への気づきを生む Sounds でも、listen-and-repeat だけではなく、能動的に思考をめぐらせるタスクを潜ませています。音変化が課題のこのセクションでは、look at の/k/の後に母音(ここでは弱母音の ə)が来ると自然にリンクし、その方が発音しやすくなりリズムも生まれ、英語らしい音になることを協働作業を通して体感できるようにしています。

3. NEW CROWN で学びを深く、脳に刻む

このように、単に「これはこうなのだから、そのルールを覚えなさい」的な記述ではなく、「協働作業を通して、気づき・発見する」というアクティブ・ラーニングのコンセプトに基づいた生徒の認知力に訴える仕掛けを施しています。

① 発音とつづり Phonics

母音字と子音字とそれぞれの発音の関係などについて気づきを与えたり、l と r など、英語特有の音について意識させたりします。

Sounds 英語らしい音

次の英文を聞いて、強く読まれている単語を○で囲もう。

1. Thank you for calling. 2. Pick your pizza.

a	e	i	o	u
cat	ten	this	fox	hungry
()	()	()	()	()

Sounds 発音とつづり

表中の太字の文字の読み方が同じ単語を下の [] の中から選んで() に書き入れ、読んでみよう。そして、つづりと発音のルールについて話し合おう。

[six hot bag but bed]

Sounds

「発音とつづり」では、単音レベルの発音について、つづりとの関係を意識しながら練習します。「英語らしい音」では、リズム、イントネーション、リエゾン、音の脱落などを扱っています。